

2016年（平成28年）

11月4日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

10/20～10/26のNYMEX・WTIは、OPEC協調減産への期待感と懐疑論が交錯する中、49.18～50.85ドルの範囲でやや値下がり気味に推移した。

10月27日は、前日の米国原油在庫減少報告に加え、OPEC湾岸産油国がピーク時比最大4%の減産をロシアに伝えたとの報道を受け、供給過剰解消の期待から、4営業日振りに反発した。12月限の終値は前日比0.54ドル高の49.72ドルだった。週末28日は、この日ウィーンのOPEC本部で開催されたハイレベル委員会で、減産に向け話し合ったものの、具体的内容は先送りされ、イラン・ナイジェリア・リビアに加えてイラクが減産対象からの除外を主張するなど、協調減産への懐疑的な見方が広がり、反落した。ペーカー・ヒューズ社発表の米国稼働リグ数は441基、前週比2基減少と6月以来初めて減少したが、ほとんど影響はなかった。12月限は前日比1.02ドル安の48.70ドルで終了した。

週明け31日は、29日のOPECとロシア等非加盟国との協議が11月末のOPEC総会前の再会合を決めただけで具体的進展はなく、主要産油国による協調減産への懐疑論がさらに強まり大幅続落し、OPEC減産合意前日の9月27日以来の47ドル割れとなった。12月限の終値は前日比1.84ドル安の46.86ドルとなった。11月1日は、この数日の主要産油国の協調減産をめぐる不透明感の広がり、翌日発表予定の米国週間在庫統計における原油在庫の増加予想等を受けて、3営業日続落した。ただ、アラバマ州のコロニアル・パイプライン事故の報告により反騰する場面もあった。12月限の終値は0.19ドル安の46.67ドルだった。

2日は、EIAの米国石油在庫週報で予想を大きく上回る原

油在庫増加と10月のOPEC産油量が過去最高を記録したとの報道から、4営業日続落し、5週間振りの安値を記録した。12月限は前日比1.33ドル安の45.34ドルで終了した。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（11月渡し）は、前週47.50～49.60ドルの範囲で推移した。27日は47.70ドル、28日は48.28ドル、31日は47.10ドル、1日は45.40ドル、2日は44.40ドルで推移した。

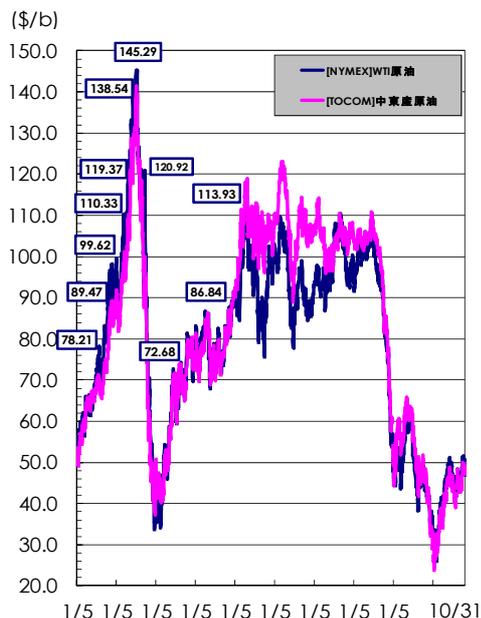
為替は、前週103.66～104.49円と狭い範囲で推移した。27日は104.53円、28日は105.20円、31日は104.86円、1日は104.79円、2日は104.15円で推移した。

財務省が28日発表した貿易統計速報（旬間ベース）によると、10月上旬の原油輸入平均CIF価格は、前旬比194円下げの28,974円/kl。ドル建てでは45.38ドルで前旬比0.13ドル高。為替レートは1ドル/101.53円。

主要元売会社の11月第2週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから4.0円の値上げとなった。OPEC減産合意後5ドル程度値上がりした原油価格はやや値下がりし、為替レートもわずかに円安となったため、原油調達コストは小幅に値下がりだった。

そのような中で、10月31日時点の小売価格は、ガソリンが0.3円値上がりの126.3円、軽油は0.3円値上がりの105.0円、灯油は0.1円値上がりの65.4円だった。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油は3週連続の値上がりだった。この週（11月第1週）の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は全社が概ね据え置き、1社のみが1.5円値下げした。

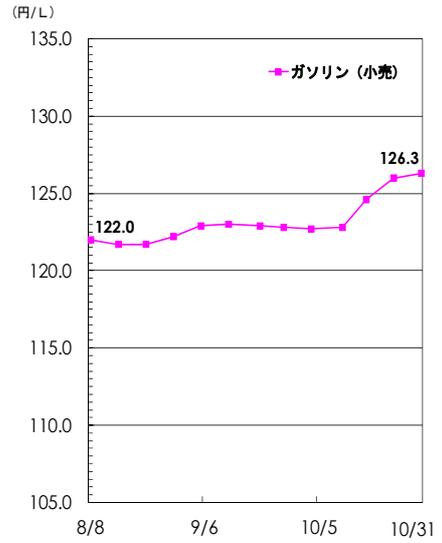
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/23～10/29	3,160 ▼-131	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	74.8 ▼-2.7	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	10/29	14,823 ▼-335	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	10/31	47.11 ▼-2.01	▼ -0.5
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	10/31	46.86 ▼-3.66	▲ 0.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月上旬	45.38 ▲0.13	▼ -2.53
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	28,974 ▼-194	▼ -7,187
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	101.53 ▲0.94	▲ 18.46
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/31	105.86 ▼-0.98	▲ 15.71



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/23 ~ 10/29	1,013 ▲ 68	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	947 ▼ -21	▲ -	
	輸出	"	44 ▲ 44	▼ -	
	在庫	10/29	1,502 ▲ 22	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/25 ~ 10/31	44.0 ▼ -0.3	▼ -4.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/25 ~ 10/31	43.5 ▼ -0.6	▼ -4.9
		(TOCOM/中部)	10/31	43.0 ▼ -0.5	▼ -5.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/31	126.3 ▲ 0.3	▼ -6.4	

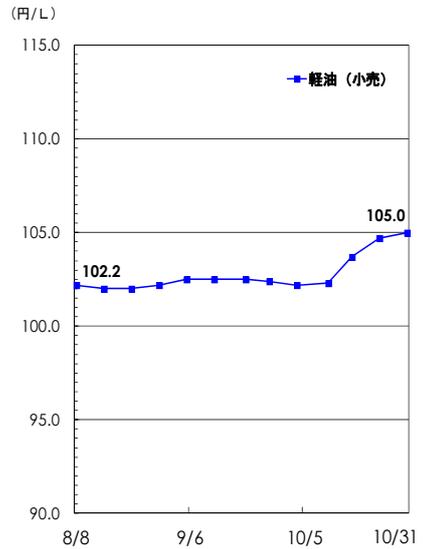
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

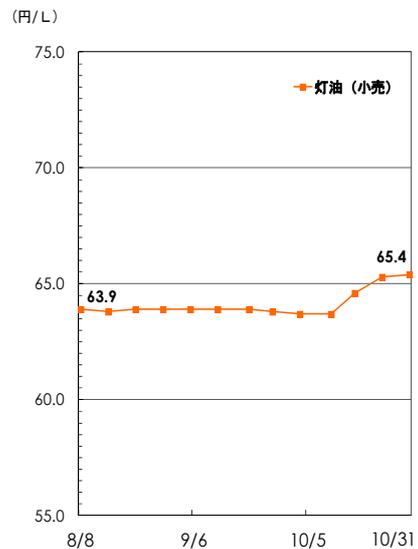
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/23 ~ 10/29	751 ▼ -8	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	641 ▼ -10	▼ -	
	輸出	"	166 ▲ 116	▼ -	
	在庫	10/29	1,414 ▼ -56	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/25 ~ 10/31	41.8 ▲ 0.4	▼ -4.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/25 ~ 10/31	41.0 → 0.0	▼ -2.7
		(TOCOM/中部)	10/31	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/31	105.0 ▲ 0.3	▼ -6.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/23 ~ 10/29	217 ▲ 15	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	314 ▲ 91	▲ -	
	輸出	"	0 → 0	→ -	
	在庫	10/29	2,719 ▼ -97	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/25 ~ 10/31	42.5 ▲ 0.9	▼ -4.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/25 ~ 10/31	44.6 → 0.0	▼ -3.1
		(TOCOM/中部)	10/31	44.0 ▲ 0.1	▼ -4.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/31	65.4 ▲ 0.1	▼ -11.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

2日のNYMEX市場のWTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫統計で、原油在庫が前週比1440万バレル増加と事前の市場予想(同100万バレル増)を大きく上回り、1982年の調査開始以来最大の増加を記録した。また、石油輸出国機構(OPEC)も10月の産油量が過去最高を記録したとの報告で、あらためて石油市場の供給過剰が認識され、4営業日続落、価格水準はこの1週間で、9月28日のOPEC減産合意前の水準に戻った形となった。12月限の終値は前日比1.33ドル安の45.34ドル、1月限の終値は前日比1.31ドル安の45.93ドルだった。

EIAによると10月31日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比1.3セント値下がりの1ガロン2.230ドル(62.3円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.1セント値上がりの2.479ドル(69.2円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油は2週振りの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、10月23日～29日に休止したトッパー能力は、62.7万バレル/日と前週に比べて0.7万バレル増加。(全処理能力は379.4万バレル/日)。

原油処理量は316.0万klと、前週に比べ13.1万kl減少。前年に対しては19.5万klの減少。トッパー稼働率は74.8%と前週に対して2.7ポイントの減少、前年に対しては2.2ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて軽油、A重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/7.2%増、ジェット/18.3%増、灯油/7.2%増、軽油/1.1%減、A重油/5.8%減、C重油/6.2%増。今週のC重油の輸入は3.1万kl(前週比1.1万kl増)。軽油の輸出は16.6万kl(前週比11.6万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、ジェット、軽油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではジェット、軽油が減少し、その他の油種で増加した。原油価格は値下がりになったものの、小売価格は4週連続で値上がりとなる中、ガソリンの出荷は94.7万kl(対前週2.2%減)と2週振りに前週比で減少、5週連続で前年比で増加となり、8週連続で100万klを割った。

ジェット5.8万kl(対前週57.9%減)、灯油31.4万kl(対前週40.8%増)、軽油64.1万kl(対前週1.5%減)、A重油22.3

万kl(対前週3.5%増)、C重油25.4万kl(対前週12.6%増)。

(単位:千KL)

	今週 (10/23 ~ 10/29)	前週 (10/16 ~ 10/22)	前週比	
ガソリン	947	968	▼ -21	(-2%)
ジェット燃料	58	137	▼ -79	(-58%)
灯油	314	223	▲ 91	(41%)
軽油	641	651	▼ -10	(-2%)
A重油	223	215	▲ 8	(4%)
C重油	254	226	▲ 28	(12%)
合計	2,437	2,420	▲ 17	(1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月29日時点の在庫はガソリンが積み増し、A重油が横ばいとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはすべての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは150.2万kl、前週差2.2万kl増。前年に対しては16.6万kl少ない。

灯油は271.9万kl、前週差9.7万kl減。前年に対しては24.5万kl少ない。

軽油は141.4万kl、前週差5.6万kl減。前年に対しては8.7万kl少ない。

A重油は73.5万kl、前週差0.0万kl。前年に対しては6.8万kl少ない。

C重油は187.4万kl、前週差5.2万kl減。前年に対しては37.7万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (10/29)	前週 (10/22)	前週比	
ガソリン	1,502	1,480	▲ 22	(1%)
ジェット燃料	977	989	▼ -12	(-1%)
灯油	2,719	2,816	▼ -97	(-3%)
軽油	1,414	1,470	▼ -56	(-4%)
A重油	735	735	▶ 0	(0%)
C重油	1,874	1,926	▼ -52	(-3%)
合計	9,221	9,416	▼ -195	(-2.1%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月25日から10月31日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは円安で、原油コストは小幅な値下がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン97~98円台、軽油41~43円台、灯油41~44円台で中間留分が後半値上がりした。海上スポット価格は、ガソリン97~98円台、軽油42~43円台、灯油45~46円台で灯油がやや値上がりした。先物価格はガソリン96~97円台、軽油41円台、灯油44~45円台で、値下がりしたガソリンを除きほぼ横ばいである。元売の卸価格は据え置きから4.0円の値上がりだった。

EMGマーケティングは11月2日、11月5日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、ガソリンは据え置き、それ以外の油種は1.0円引き上げる旨を通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが値上がりし、卸価格も引き上げられたことから、製品スポット市況は堅調となった。週間のガソリン販売量は、7週連続で100万klを下回った。

11月第2週(11月3日~11月9日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(10月25日~10月31日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.3円の値下がり、灯油は0.9円、軽油は0.4円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.2円の値下がり、灯油は0.8円、軽油は1.1円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.6円の値下がり、灯油、軽油が横ばいだった。OPECの減産に対する懐疑的な見方が続き、原油価格は値下がり、円安によりやや相殺されたが原油コストは小幅に値下がりし、製品スポット価格は小幅に変動した。

11月第2週の大手元売の卸価格は、横ばいから4.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (10/25 ~ 10/31)	前週 (10/18 ~ 10/24)	前週比
	レギュラー	44.0	44.3
灯油	42.5	41.6	▲ 0.9
軽油	41.8	41.4	▲ 0.4

[期近物/終値] [平均]	今週 (10/25 ~ 10/31)	前週 (10/18 ~ 10/24)	前週比
	レギュラー	43.5	44.1
灯油	44.6	44.6	➡ 0.0
軽油	41.0	41.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.3	▼ -0.6	▼ -0.4
灯油	▲ 0.9	➡ 0.0	▲ 0.5
軽油	▲ 0.4	➡ 0.0	▲ 0.2
A重油	▼ -0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

10月31日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円値上がりの126.3円、軽油は前週比0.3円値上がりの105.0円、灯油は前週比0.1円値上がりの65.4円だった。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油は3週連続の値上がりとなった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは31道府県、横ばいは8都県、値下がりは8県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の121.5円(前週比横ばい)、次が千葉県の122.4円(前週比0.2円高)だった。最高値は長崎県の135.6円(同1.2円高)だった。都道府県別で最も値上

がりしたのは、前週比3.3円高の高知県(128.3円)で、最も値下がりしたのは0.7円安の岡山県(122.6円)だった。

原油コストはやや値下がりしたが、4週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の元売会社の卸価格は据え置きから4.0円の値上がりだった。原油価格はさらに値下がりしたものの、為替レートはやや円安で、原油コストは値下がりとなったため、次週の小売価格は、小幅な値下がりが見られる。

[週動向]	今週 (10/31)	前週 (10/24)	前週比	直近高値	
	レギュラー	126.3	126.0	▲ 0.3	08/8/4
灯油	65.4	65.3	▲ 0.1	08/8/11	132.1
軽油	105.0	104.7	▲ 0.3	08/8/4	167.4

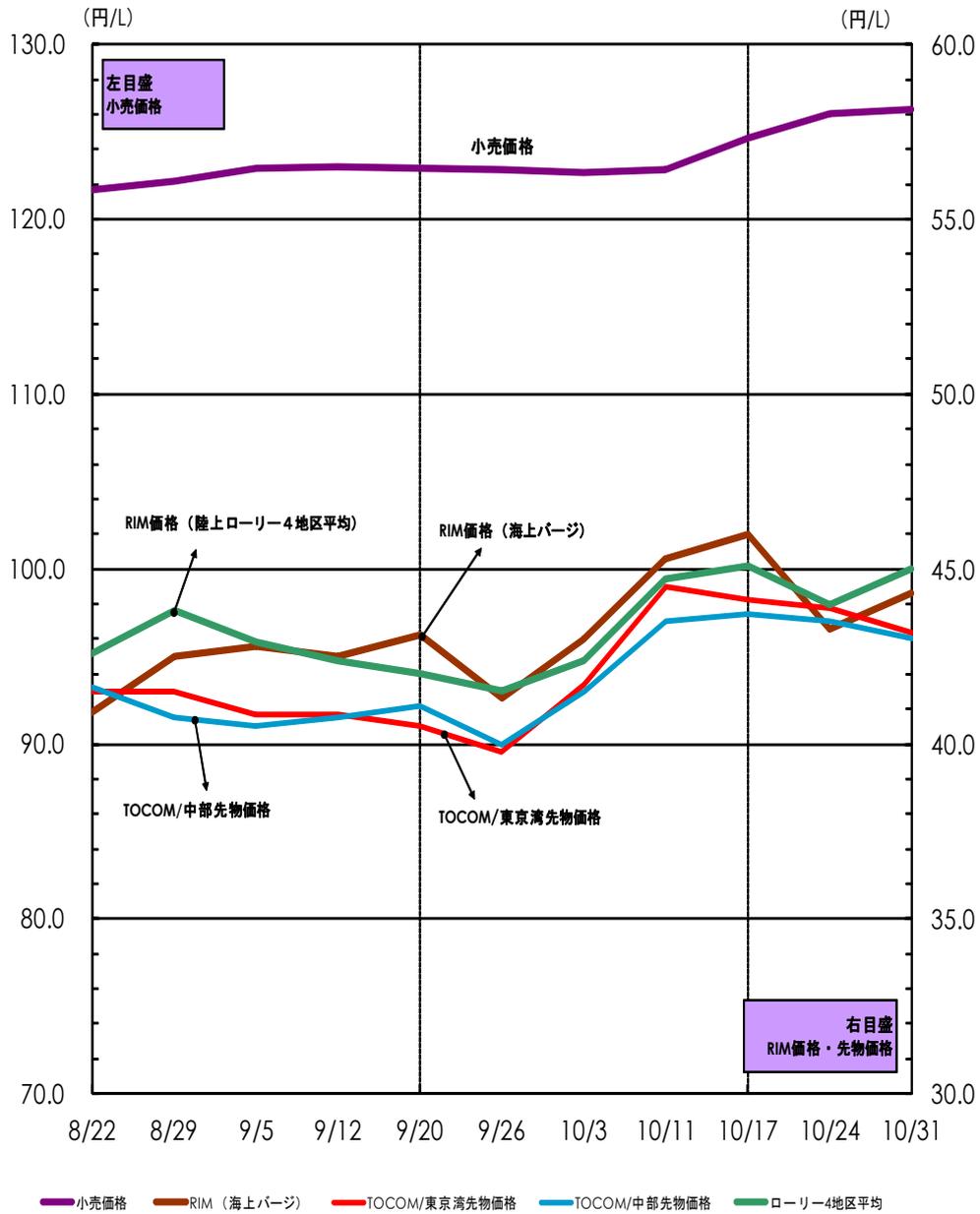
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2016/8/22 ~ 2016/10/31)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2016第31号)の公表は、11/11(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。